



八戸小唄流し踊りの練習をする介護福祉学科の学生たち

本番へ練習に熱 八学短大生

あす小唄流し踊り

12日に八戸市中心街で行われる八戸小唄流し踊り(東奥日報社主催)に向け、学院大学短期大学の学生

たちが練習を重ねている。幼児保育学科と介護福祉学科の1、2年生計約180人が参加予定で、大所帯で会場を盛り上げる。

八学短大は2008年から八戸小唄流し踊りに参加

している。介護福祉学科には留学生の参加者もいて、歌や踊りを通して日本の文化や地域について学ぶ機会にもなっている。

学生たちは5月下旬から、各学科の教員や日本舞踊泉流師範の泉彩菜さんの指導を受け、少しずつ踊りを覚えたり磨きをかけたりしてきた。幼児保育学科1年・阿部詩音さん(18)は「八戸市出身」は「八戸小唄流し踊りは知っていたけれど、踊るのは初めて。しなやかさを出すのが難しいけれど楽しい。本番は曲の意味を考えながら大きききれいに踊りたい」と意気込む。

同学科の本吉好講師は「地域の伝統である八戸小唄流し踊りを学び、学生自身が楽しく踊ることはもちろん、将来子どもたちにも伝えてもらいたい」と期待を込めた。

八戸小唄流し踊りは12日午後5時半にスタート。踊り手たちが十三日町から三日町まで踊り歩くほか、八戸まちなか広場マチニワでは特別輪踊りが披露される。

(大庭菜摘)